



~ 13
 1178
 6



~ 13
 1178
 5

三編下





お
は
な
し

三
1178
5

1178
5

日蓮上人

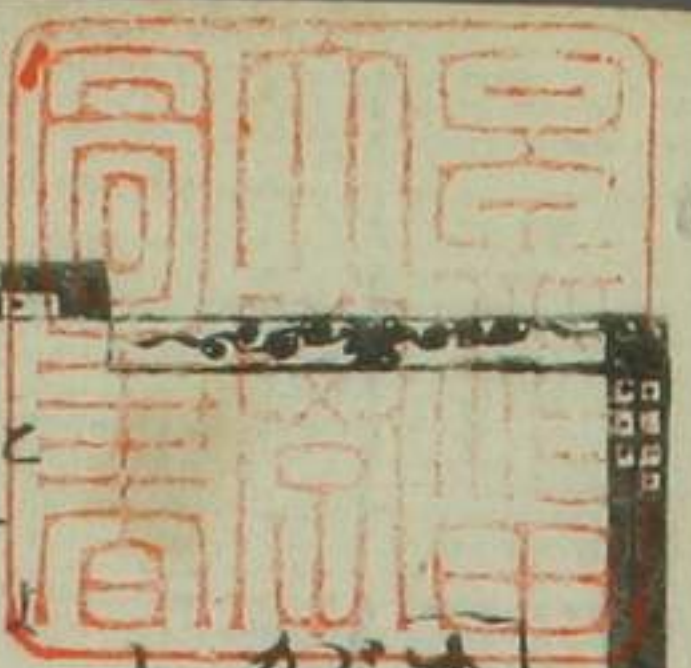
行負化
を國画

廣孝板

日人画



嘉永
庚戌
新彫



あつらひしんでしよとる乃をさむぶ谷船ちのあひ
かき片舟のりれゆやうられりそこしひかきめん
たさういふさうの城きうまき

是の世も知紀伊國文左が英一蝶と同伴て花巷通の路まう急雨
小あひさきまを其終朝湖の文作のめとせられあらぬまらぬの此表
ゆゆゆ良行が逸ゆゆと二人連妹許いそ柳街土壇の合傘あゆむ
舟道行二人の真管を片身替の夕時雨も跡生の空に花吹雪おけて今
宵いめづしい國守の同省打扮それとさあさ船越を情の切音さき
不や来つると此序を綴しも彼小唄小梢衆込山谷船とさま真土の
邊の居とトして麓園と別号せしころなむ

嘉永己酉初夏結稿
同 庚戌孟版発兌

柳下亭種員記





博多柳街獨鈿屋の
遊女綾機

美奈大友大盡
若菜子
嬢子



やとくきり
とくしをたけぬまゝに
とくしをたけぬ

同苗多門之助
光行と号
子と
龜谷彈正
光政の養
族多門之助
舎弟
菊地
自行







種員作豊國画



志ぬい蟬

五拾四編の柳亭種彦作
六編にて一惠齋芳幾画

両面織花田物語

初編より
五編迄同
近刻同
画作

假名續八丈傳

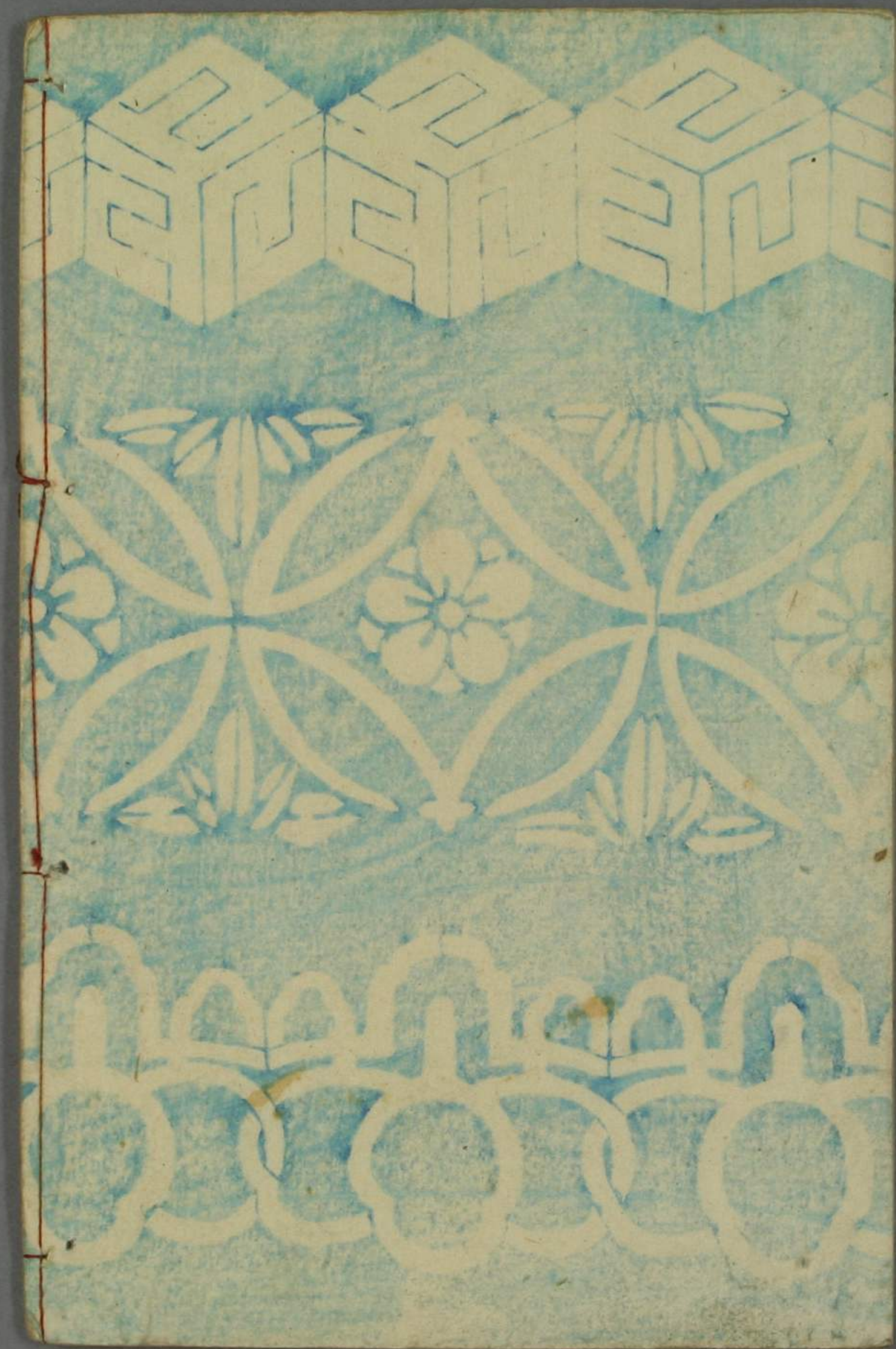
三十編の假名垣魯文録
三十五編の朝霞樓芳幾画

古今能優 似顔大全

故豊國公羽筆
大錦 白三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續 惠齋芳幾圖



如 加 理 種 負 他 是 國 画

三編下

五板



1178
6

廣



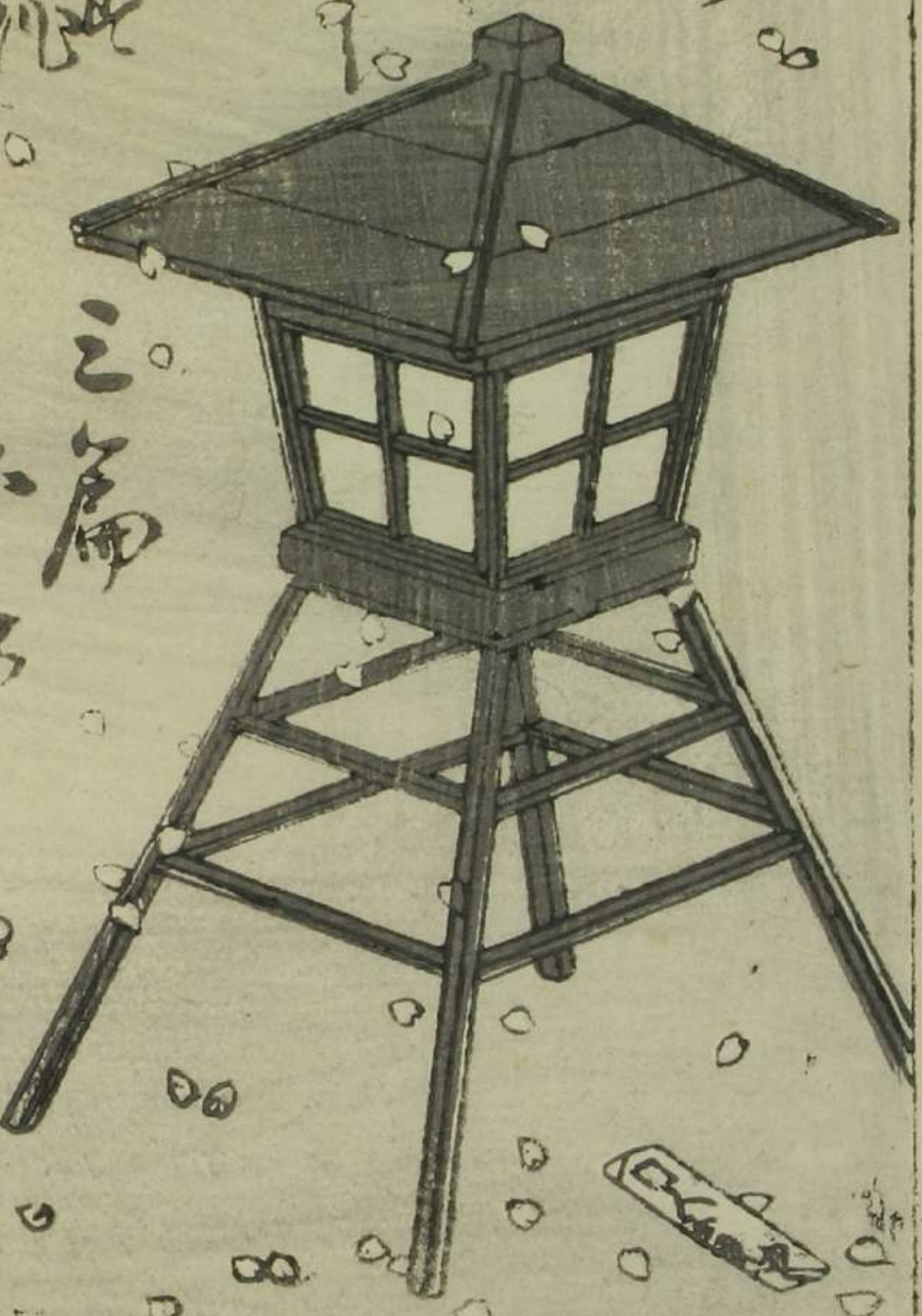
Handwritten text in the upper left corner of the illustration, likely a commentary or a list of items related to the scene.

Handwritten text in the lower left corner of the illustration, possibly a signature or a note.



1178
6

あきら
ぬは
禪
あきら
ぬは
禪



三篇
おほ
まのま
廣岡重板



三 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ



四 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

五 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

六 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

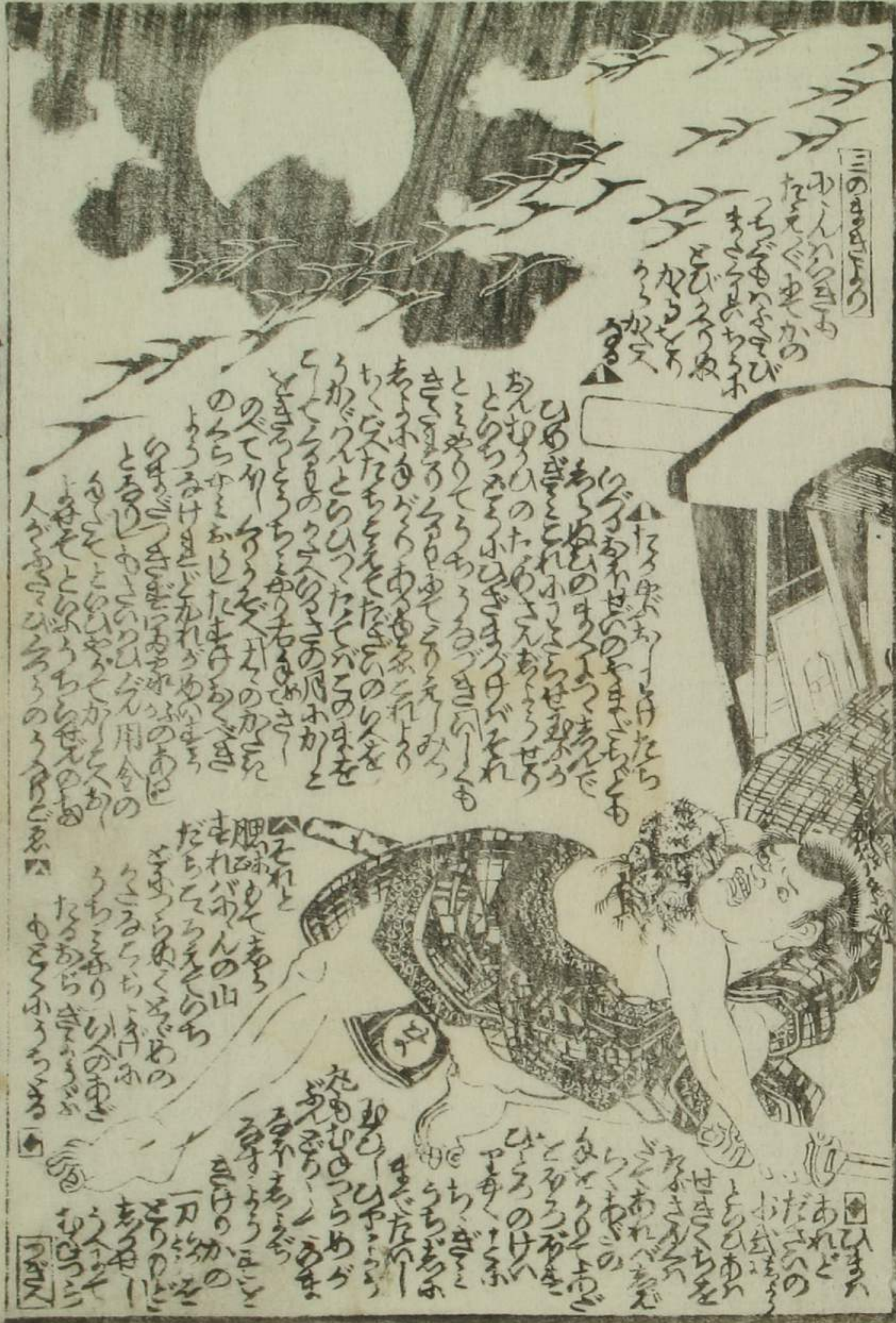
七 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

八 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

九 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十一 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ



十二 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十三 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十四 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十五 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十六 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ

十七 ちやうどてりてゐる御殿
ゆづりもくしあつた
まのまゝ





人ハ...

ノキト...

...



...

...

...



豊國画○種員作



朝霞樓芳幾画

浪穂黄金鯨

三編讀切

瀬川如泉
山々亭有
惠齋芳幾
梅素齋魚
松湖交來
假名垣其
可竹魯文
水作

名譽の義職
楠木金輔
名譽の孝女
桂豆於市

一対男の縁小因て戯作劇場と一様小竹林多々ぬ七軒人が一回五葉と持きりの
合作全備の三編冊 初編 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同
同 如泉作 三編 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同
三編 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同 其水作同
定め二豆小筆カを法し 浮宮藏板の志らぬ以同様御高評と希ふ

北草紙四巻

江戸深川佐賀町
廣園齋幸助梓

